

浜田市議会 議会BCP（業務継続計画）の策定経過と内容

目的

非常時における議会の基本的機能の維持のために、必要な組織体制や議員の行動基準等を定める

◆ 議事・議決機関としての役割（執行機関のチェック）

◆ 住民代表機関としての役割（市民の声を反映・災害等対策支援）

策定経過

平成23年3月11日
東日本大震災の発生

平成23年9月
議会基本条例を制定し、第5条に危機管理の規定を設ける

令和2年1月以降
新型コロナウイルス感染症のまん延
◆ 全国的に議会の災害対策組織の設置や議会BCP策定の必要性が増す

令和3年12月～
議会改革推進特別委員会において、議会BCP策定に向けて検討開始

- ・ 全国市議会議長会フォーラム「大災害・感染症と議会」の視聴
- ・ 先進市議会の議会BCPを参考に検討（特に大津市、倉敷市を参考）
- ・ 大津市議会をオンライン行政視察
- ・ 約1年間の検討を経て、特別委員会として議会BCP案を作成し、議長へ報告（令和4年11月）

◆ 議会改革推進特別委員会で検討・作成した議会BCP案を議長へ報告。その後、議長から全員協議会で全議員へ説明。全議員の了承により、浜田市議会BCP策定（令和4年12月1日）

内容

【大方針】

1. 議員・事務局職員の安全確保
2. 審議等を行う環境確保・整備
3. 的確な情報の収集と把握



【基本的方向性】

- ◆ 業務継続（安否確認）体制の構築 ※議員・事務局職員の安否確認
- ◆ 議会の体制整備（議会災害等対策支援本部の設置）
- ◆ 災害対応の具体的行動の整理
- ◆ 審議等を継続するための環境の整備
- ◆ 防災訓練
- ◆ 議会・議長・議員の役割の明確化
- ◆ 災害情報等の的確な把握と議会内での共有 ※災害時の連絡
- ◆ 必要な政策提案
- ◆ 災害に応じた時間軸ごとの具体的行動の整理（災害発生時の行動俯瞰図）

その他

◆ 審議等を継続するための環境整備

- ① 議場等の代替施設の検討 ⇒ 市と協議し検討
- ② 通信環境等 ⇒ 災害時における安否確認や情報共有ツールには、機動性・活用性を考慮し、各自のスマートフォンのLINEアプリを活用。
全議員と議会事務局長、次長とでグループLINEを作成して活用。
- ③ 備品の整備 ⇒ 各自で備蓄品、モバイルバッテリーを準備。
- ④ オンライン会議の開催

◆ 防災訓練の実施

議会としての防災訓練を定期的に実施し、災害対応に対する意識の醸成と対応行動の習得を図る

◆ 議会BCPの見直し

新たな課題が明確となり、手順や内容に変更が生じた場合等、必要に応じて適宜見直しを行う